

EVANGELION

CHRONICLE

17

目次 CONTENTS

Mechanic Sheet メカニックシート

- エヴァンゲリオン3号機/第13使徒バルディエル 01-04
- EVA長距離離送機 09-10

Character Sheet キャラクターシート

- 05-08 鈴原トウジ

Tactics Sheet タクティクスシート

- 11-12 第15使徒アラエル戦

Timeline Sheet タイムラインシート

- 13-16 男と女

Installation Sheet インスタレーションシート

- 17-18 その他地域 A

Technology Sheet テクノロジーシート

- 19-22 EVA格闘武器類


Extra Sheet エクストラシート

- 23-24 用語辞典
- 25-28 企画書
- 29-32 トピックス

新世紀エヴァンゲリオン オフィシャルページ

エヴァンゲリオンのリアルタイム情報はこちらで!

PCサイト
▶http://www.gainax.co.jp/anime/eva/
携帯サイト▶http://www.jp/eva/ ココからGO!
エヴァンゲリオンオフィシャルストア
▶http://www.evastore.jp/



【発行日】 2010年6月1日
【発行】 株式会社デアゴスティーニ・ジャパン
〒104-0045
東京都中央区築地4-7-5 築地KYビル

【発行人】 小河原和世
【編集人】 クロス中山慶子
【チーフエディター】 安部 翠
【印刷】 大日本印刷株式会社
©2010 K.K.DeAGostini Japan All rights reserved.

【編集協力】 株式会社イブワ (石川裕人/田代 豪/久保圭/本多らな)
【監修】 株式会社ガイナックス
©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/EVA製作委員会

＜オリジナル版＞
【編集協力】 有線会社 メガロマニア(富田英樹/高村泰樹/渡邊洋三/
加藤和弘/山田風貴/島木貴章/鈴木秀治/公彦直樹)
【執筆】 TRAP(西川紗矢/道藤智子)/ぼろり専車
【イラスト】 市川裕文/深野幸一(M.L.C)/高下直樹/針尾卓弥/獅子鎮
【デザイン】 ローカル・サポート・デパートメント(島田真由/角田正明)
株式会社 インフォビジョン(河野幹哉/安川純史/阿部将之)

＜新訂版＞
【編集協力】 スタジオ・ハードデラックス株式会社(伊藤桃香/米良真一)
【デザイン】 スタジオ・ハードデラックス株式会社(松本優真)

- 書店向け注文センター
(書店様からのご注文を承ります)
☎ 03-5212-5311
(月～金 9:30～17:30 土日祝日を除く)
☎ 03-5212-5312
- 読者サービスセンター
(本誌関連の一般的な質問を承ります)
☎ 0570-008-109
(月～金 10:00～18:00 土日祝日を除く)

※本商品は2007年に刊行された「エヴァンゲリオン・クロニクル」(発売:ソニー・マガジズ)に改訂を加えて刊行するものです。

本誌の最新情報をCheck!

PCからもケータイからも同じアドレスでアクセスできます。
<http://deagostini.jp/eva/>



定期購読のご案内

週刊「エヴァンゲリオン・クロニクル 新訂版」は、毎週火曜日発売です(一部地域を除く)。シリーズ全号が確実にお手元に届くように、書店を通じた定期購読をお勧めいたします。最寄の書店で、定期購読または予約購読をご用ください。また、小社を通じての定期購読を希望される方は、次のいずれかの方法でお申し込みください。

- 1. 読者専用定期購読注文センターに電話またはFAXで**
☎ 0120-300-851
(9:00～21:00 年中無休)
☎ 0120-834-353
(定額購読申し込み用紙をお送りください。24時間受付)
- 2. インターネットで**
<http://deagostini.jp/eva/> (24時間受付)
※ケータイからも同じアドレスでアクセスできます。
- 3. 定期購読申し込み用紙を郵送**
[「定期購読のお知らせ」]がお手元にない場合は注文センターまでご連絡ください。

特製バイندر発売中!!

週刊「エヴァンゲリオン・クロニクル 新訂版」は特製バイندر4冊に収まります。エヴァンゲリオン大百科を完成させるのに不可欠な特製バイندر2・3巻の2冊セットを創刊特別価格990円(税込)で発売しております。お近くの書店でお求めください。



※創刊特別価格は2010年5月末までの期間限定となります。それ以降は通常価格1,790円(税込)となります。
※4巻目のバイندرは第31号でプレゼントいたします。

▼下部のフリーページの下欄に詳細を、右上に貼っていただく。個人情報が印刷されないことについて、個人情報保護法に基づき、掲載の個人情報は、発行後30日間以内(印刷物)に限り印刷され、その後、個人情報はすべて削除されます。個人情報が印刷されないことについて、個人情報は発行後30日間以内(印刷物)に限り印刷され、その後、個人情報はすべて削除されます。個人情報が印刷されないことについて、個人情報は発行後30日間以内(印刷物)に限り印刷され、その後、個人情報はすべて削除されます。個人情報が印刷されないことについて、個人情報は発行後30日間以内(印刷物)に限り印刷され、その後、個人情報はすべて削除されます。

※印刷時間 10:00～18:00 印刷所 株式会社印刷センター(03-5212-5311) 印刷部
※発行時間 10:00～18:00 印刷所 株式会社印刷センター(03-5212-5311) 印刷部

汎用人型決戦兵器
人造人間 エヴァンゲリオン

第13使徒

3号機

ミルデイエル



使徒に乗っ取られた

漆黒のEVA



NERV

EVA-03
PRODUCTION MODEL



UNKNOWN

THIRTEENTH ANGEL
BARDIEL

Mechanic Sheet
EVA-03 / 3号機 / 第13使徒 / ミルデイエル
EVA-03 / 3号機 / 第13使徒 / ミルデイエル
04
EVA-03 / 3号機 / 第13使徒 / ミルデイエル
EVA-03 / 3号機 / 第13使徒 / ミルデイエル

使徒として殲滅された 不遇のEVA

使徒の手に堕ちたEVAである3号機。歴史上、敵に鹵獲された兵器が戦争を左右した試しはない。しかし、知恵の実の産物であるEVAという身体と使徒のS・機関を併せ持つバルディエルは、人類と使徒の戦いを左右し得る存在だったといえよう。

NERV第1支部から本部へと移譲された3号機は、起動実験の際バルディエルに乗っ取られてしまい、第13使徒としてEVA初号機に殲滅された。

エノク書によると、バルディエルはベネ・ハ=エロヒム(「神の子ら」を意味する霊賢の劣る諸神)のひとりであり、地上にて愛肉したとされる。



初号機の首をかまかせに絡め上げるバルディエル。この後ダミーシステムが起動した初号機に逆襲を受けて指骨を折られ、解体しながらの破壊によって殲滅された。

DATA 1

機体:EVA-03 PRODUCTION MODEL

3号機

搭乗者:4th Children

鈴原トウジ

主武器:WEAPON

不明

機体配色:COLOR



以下のデータは3号機が使徒と識別された際のものである。

DATA 2

呼称:13th ANGEL

第13使徒

天使名:BARDIEL

バルディエル

象徴:SYMBOL

霰

能力:ABILITY

寄生



前面 FRONT



背面 BACK

使徒

……

これが使徒ですか!?

(碓シンジ)

関連事項 RELATED INFORMATION

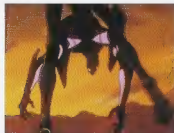
- 3号機起動実験
- 松代第2実験場
- 鈴原トウジ
- ダミーシステム
- 使徒



米田スタッフの主導で行われた3号機の調整および起動試験。同機は松代の地下ケイブに墜ちられ、指揮は地上で行われる。

バルディエルの体構造

使徒が3号機の制御を乗っ取って活動しているため、基本的にEVAと同様の構造を持つ。しかし、寄生の結果、宿主である3号機の生体部品が変質、本来のEVAにはない身体能力を備えるに至った。なお、寄生状態の3号機に菌糸状の物質が見られるため、使徒の本体はマイクロマンサイズの使徒であったイロウルのような、不定形の粘菌状生命体と考えられる。



一瞬目に写さ、その高倍率で後へ跳び出すという、物理法則を無視した不可解なバルディエルの動き。これはA.T.フィールドを利用したものと考えられる。

伸張する両腕と運動能力

寄生によって変質をきたしている3号機の身体、顕著なのは伸縮可能な両腕で、格闘においてリーチの読めない武器となる。また、武号機と零号機を同時に屠っていることから、高い戦闘能力を持っていることが分かるだろう。シンドロム攻撃といっても過言ではないEVAの性能だが、バルディエルは自在にEVAの身体能力を引き出すことで高い戦闘力を生んでいる。

まるでゴムのように伸びる伸縮自在の両腕。高い運動能力とこの両腕によって敵兵器に対するリーチの不利を補い、感覚に持ち込んで、EVAを活動停止に追い込んでいく。

バルディエルは寄生したEVA本来の機能性を遺憾無く發揮して活動。その動きを暴走した初号機を妨害させ、ヒトの動きを遅らせたアロウパティック運動能力を見せている。



母体である3号機

EVA武号機と同様に先行量産タイプである3号機。頭部は初号機と同じ双腕の光学センサーが採用され、面出てのような装甲が施されている。その性能は武号機に準じたものと推測され、即戦機が可能なほど安定した完成度を誇り得ていた。また、葛城ミサト三佐の言によると、3号機と4号機は米軍が建造機を主張し、強引に建造を進めていたという。なお、第2支部と共に消失したとされる4号機も同タイプであったとされる。



→3号機の頭部



NERV第2支部消失事故の結果が、EVAという兵器の危険性を恐れた第1支部は4号機の所有権を放棄。長距離輸送機での空輸の際も、備後のような状態で搬送に拘束されていた。

EVAを浸食する粘菌状の物質

粘菌状の生命体と思われるバルディエルは何かで寄生して活動するタイプと考えられ、EVAというポテンシャルの優れた兵器に寄生したあかげで高い戦闘能力を發揮している。だがそれは諸刃の剣であり、本来なら不定形である使徒が、寄生した母体と一体化してEVAというカタチを得たが故に、物理的な手段によって破壊される要因ともなっているといえるだろう。



装甲の内側に見られる菌糸状の物質。これが全身に埋め込まれてEVAを掌握していると考えられる。感知されず浸食が進んだのが、起動直後、爆発的に増殖したのが定かではない。



↑零号機を組み敷くバルディエル

バルディエルの活動記録

米国のNERV第1支部で建造された3号機は、第2支部消滅を契機に本部へと移譲される。その移送中に3号機へ寄生したと思われるバルディエルは、同機の起動実験の際に機体に乗っ取り第3新東京市に向けて侵攻。野辺山付近に展開したEVAと交戦し、武号機、零号機を相次いで撃破する。寄生によって結果的にフォースチルドレンを人質にした形であり、そのことで初号機の操縦者は戦意を喪失。しかし総司令の判断によりダミーシステムが起動され殲滅された。



積乱雲の中に潜み、移送中の3号機が通過した際に寄生したものと考えられるバルディエル。3号機、3号機の起動実験の際、絶好の機体を破壊、起動した瞬間に活動を開始する。



ダミーシステムの起動した初号機と戦い上げる。即座に寄生されただけでは済まず、エントリプラグが埋り満されるまで初号機の攻撃は続いた。

バルディエル侵攻記録

太平洋上の積乱雲にて3号機に寄生

→

3号機に乗っ取る

→

起動実験中に3号機を乗っ取る

→

野辺山にてEVAと交戦

→

ダミーシステムが起動した初号機の攻撃により活動停止

バルディエル殲滅



特記事項

フォースチルドレン 鈴原トウジ

4番目の適格者。赤木リツコ曰く「速やかにコアの準備が可能なり子供」であったため、3号機のNERV本部移譲に合わせて選出された。第3新東京市の病院に入院中の妹を本部の医学部へ転院させることを条件に、フォースチルドレンとなることを承諾する。「男はこうあるべき」というポリシーを實踐する好男子であり、サードチルドレンとは友人同士。3号機に搭乗したまま使徒との戦闘に巻き込まれ、左腕切断の重傷を負うものの一命を取り留める。





NERV



4th Children

鈴原トウジ

TOHJI SUZUHARA

4人目の適格者となった
快活な熱血男児

Character Sheet

キャラクターシート

鈴原トウジ

TOCHI SUZUHARA

【個人情報】

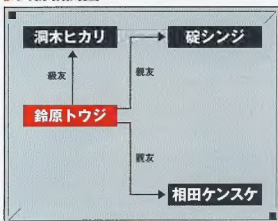
名前	鈴原トウジ
年齢	14歳
国籍	日本
生年月日	A.D.2001/12/26
血液型	B型
所属	第3新東京市立第壱中学校/NERV

鈴原トウジは、EVA操縦格者候補が集められた第3新東京市立第壱中学校、2年A組に在籍する男子生徒である。大阪から転居してきた彼の家族構成は祖父、父親、妹の4人家族で、祖父と父親は共にNERV関連の研究所に勤務しているようだ。

EVA操縦格者の碓シンジ、綾波レイ、惣流・アスカ・ラングレーらのクラスメイトであるトウジは、特にシンジと深い交友関係を持つ。EVA初号機と第3使徒サキエルの戦闘——第一次直上会戦において妹が負傷、さらに入院することとなり、憤慨するトウジ。彼は初号機のパイロットがシンジであることを知り、その怒りをシンジにぶつけた。だがその後、第4使徒シャムシエルとの戦闘——第二次直上会戦において、苦惱するシンジを目的当りにしたことがきっかけとなり和解。それからの、彼らは親友といふべき関係を持つこととなる。以前から親しかった相田ケンスケも加え、しばらくの間は3人でごく普通の中学生男子らしい生活を送っていたようだ。

しかし、EVA3号機に搭乗するフォースチルドレンとして選定されたことで、トウジの運命は一変する。起動実験のために3号機に搭乗した際、同機に第13使徒バディエルが寄生していたために戦闘に巻き込まれ、一命は取り留めたものの左腕を失うことになってしまったのである。平和な日々を過ごしていた少年が、突然戦場に陥り出される——。その厳しい現実を突き彫りにした事件はトウジだけでなく、その親友であり、同じEVA操縦者でもあるシンジに大きな影響を与えることとなる。

人物相関図



関連項目

- 洞木ヒカリ
- 碓シンジ
- 相田ケンスケ
- EVA3号機



第3新東京市立第壱中学校、2年A組のクラス委員長を務める、生真面目な少女。トウジに対し、密かに想いを寄せている。

表情

一瞥段はあまり見せない表情を差かべるトウジ。強く割った頬骨とやや遠慮い肌、トレードマークであるジャージ姿があいまって、スポーツ少年らしい雰囲気を醸し出している。



登校前が学校最大の楽しみというトウジ。こうも幸せそうな表情を浮かべられる少年らしさも、彼の特長といえるだろう。



トウジの顔の中で目を引くのは、やや垂れ気味の瞳だろう。ひょうきんであったり、人当たりがよかったりといふゆえの性質を数筆特徴のひとつといえよう。



背面



寒家に居てはいるが、彼と同じ施設で学校生活を送る事も見受けられる。いさづいてはいるとはいえ、常夏の福新東京市。黒いジャージ姿である14もあつたかもしれない。



↑明るい性格の持ち主だが本質的には生真面目で、真摯な顔顔を見せることも。フォースチルドレンに選定された後は、神妙な面持ちを浮かべることが多かった。

正面



一瞥には学校名などの別荘は無い。志願にブランドのロゴらしきものがプリントされているところを見ると、学校指定のものではないようだ。

キャラクターシート

Character Sheet

鈴原トウジ

Sheet

09

TOHO SUZUHARA

鈴原トウジ

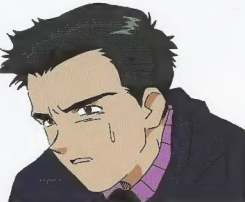
という存在



シンジを助けたことを謝罪し、自分を許してもらわないと気がすまないというトウジ。同行していたケンスケに「黙すかい」壁と書かれてしまふほどの無言ぶりである。



勉強は苦手なのか、机に頭を乗せるなどお世辞にも態度が良いとは言えないトウジ。興味のないことにはまったく関心を払わないという性格のあらわれとも考えられる。



→1ひょうきんな表情や、無りかくる真剣な表情を浮かべたトウジ。こうした表情の落差は、同じ中学2年生のシンジと比較しても大きく、後の少年らしい部分を知覚に表しているといえるだろう。

トウジは硬派を自称する熱血漢であり、いわゆる体育会系の中学生だ。常にジャージを着用していること、関西弁で会話することなども、そういった部分を強調しているように思われる。妹が負傷した事件においては、シンジを陥りつけたトウジ。しかし、その後自分の認識が誤っていたと認め、逆にシンジに自分を陥らせたという一連の出来事なども、彼の熱く深い性格を表しているといえよう。間違ったことが許せない、一本気な少年なのである。しかし一方で、熱いばかりではなく情に厚い一面も持っている。入院している妹を何度も見舞いに行っていることや、友人であるシンジらに対する態度などからも、その心配りが見て取れる。どこかひょうきんな雰囲気があるせいかあまり鋭い印象はなく、アスカにも鈍感であると言われたことのあるトウジ。だが、その実、自分の様子を見に来たレイが実はシンジを心配していたことを察するなど、他人の心の機微に敏感なところも見せている。これもまた彼の情に厚い部分の表れではなかろうか。

EVAに関係する人間たちの中で、トウジのように人間らしく豊かな表情を見せる存在は少ない。しかし、だからこそ彼の存在が際立ち、特殊な環境に生きる操縦資格者とも壁を作らず、良好な関係を築くことが可能であったともいえる。時にひょうきんであり、時に熱い「少年らしさ」という性質が、良い影響を与えていたことは間違いないだろう。



入院中の妹を見舞いに来たトウジ。道に2回は必ず訪れているらしい。その献身的な姿は、窓内の看護婦たちにも感心されるほどだ。

トウジの家庭環境については祖父、父親、妹の4人家族であるという家族構成は明らかになっているものの、不在である母親の行方などの詳細は不明である。また、NERVの関連機関に勤めている父や祖父が多忙であることは想像に難くない。

そういった背景から、トウジはこれまで妹とふたりで過ごす時間を多く持っていたものと推測される。そのような家庭環境の中で、妹を家族の中でもより近い存在と感じ、大切に想うようになったのだろう。その妹への気持ちの間接的にトウジとシンジの友人関係を築ききっかけとなった。また、彼がEVAに乗る大きな理由になったことも想像に難くない。

家庭

が与える影響

EVA

に乗る理由



EVA操縦資格者に選ばれたと知られてからは、普段の快活さがなく上々の空であったトウジ。親友であるシンジと同じ立場に置かれることを、実感できなかったのかもしれない。

何かを決意したかのように、強く手を握るトウジ。その表情には、おなじみEVAに乗ることの覚悟と知らぬ間に、切實な操縦者であるシンジを陥らせたことを思い出していた。



トウジはEVA操縦資格者として選出された際に、EVAに乗る交換条件として妹をNERV本部付属の医学部に転院させることを要求した。おそろく、妹思いのトウジにとって、EVAに乗る直接の理由として、最も大きい要因であったと考えて間違いないだろう。

また、明言されていないものの、過去に使徒と戦い憤慨するシンジを目の前で見える機会を得たトウジが、多少なりとも友人の苦悩を理解しようとしたという部分もあるかもしれない。どちらにせよ、彼の操縦資格者らと比較すると、トウジがEVAに乗る理由は簡潔なものである。それもまた、彼の一本気な性質に起因しているといえるだろう。



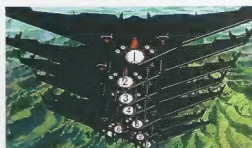
EVA長距離輸送機



EVAの空中輸送を担う 巨大な翼



特殊輸送機のエVAはカール・C17に似て、特殊輸送機として開発された。



EVAそれぞれには専用の輸送機が用意されている。性能に差はないと思われるが、量産機である5~13号機の投送方法は特殊で、頭部、胴体、下半身が拘束された状態で輸送される。

空輸という輸送手段の登場により、輸送は革新を迎えた。遠く離れた目的地への迅速な移動には空輸が不可欠であり、兵器の運用には必須である。

基本的に第3新東京市での運用を前提としているEVA。いわば有利な「ホーム」での使徒迎撃が主眼となっているものの、打って出る場合も考慮して特殊な輸送機が開発されている。それもEVA運用システムの一環として莫大な予算を投じた、汎用性のないEVA専用の輸送機である。なお、VTOL式の機体やヘリコプターが重宝されていることから分かる通り、セカンドインパクト後の世界は、短距離もしくは垂直での離着陸を可能とする航空機が求められている。EVA長距離輸送機もその例に漏れず、STOL (Short Take-Off and Landing) 性能を有す。

EVAが第3新東京市の外で活動する際、様々なバックアップを得なければ十分な運用はできない。その輸送面を担うのがこの機体の役目である。



NERV

Transport Aircraft

機体性能と運用

「く」の字型の形状をした巨大な全翼機。そのため速度は出ないものの安定した飛行が可能である。重量が増したD型装備のEVAでも輸送可能な搭載能力を備える。また、4基のエンジンを搭載し、太平洋を横断できるほどの優れた航続距離を誇る。

1 レーダードーム

機首部分のほか、左右に2基のレーダードームが備わっている。このため優れた索敵、情報分析能力を有し、神出鬼没である使徒の出現に備えての用意だと考えられる。

2 EVA収納カーゴ

機体の中央にはEVAを収納するためのカーゴを持つ。両サイドのガイドレールに、EVAの胴体パーツ部分が4本のロックボルトによって固定される仕組みとなっている。また、空中からのEVA投下能力を持ち、その際EVAはF型装備（「Flight」の「F」と考えられるが詳細は不明）にて運用されていると推測される。投下プロセスは右図の通りで、投下地点に接近するとまずEVA本体から電源（これも固定具のひとつとして機能していると考えられる）が外れる。次にガイドレールが風開いて、EVAが機外に引き出される。最終ロックボルトが一斉に外れ、機体が後方へスライドするように投下される。

3 大型ブースター

EVAという巨体を抱え込んだまま飛び立つためには、大出力のエンジンだけでは揚力を得られない。そのため補助用の大型ロケット・ブースターを左右に4基ずつ加設する。使用後は切り離す使い捨ての固体燃料ロケットであり、取り付け用の専用パイロンを両翼に持つ。



大型ブースターを用いることで機別にSTOLを可能とする機体設計の巨人機。

4 キャビン

カーゴ部分の上には操縦席のあるコックピットと乗務員席がある。機体の巨大さに比べキャビンは最小限。



向かい合うように座る乗務員席。操縦席のほか、作戦の指揮を執れる人物が座ると考えられる。



↑

■ J.A.停止作戦

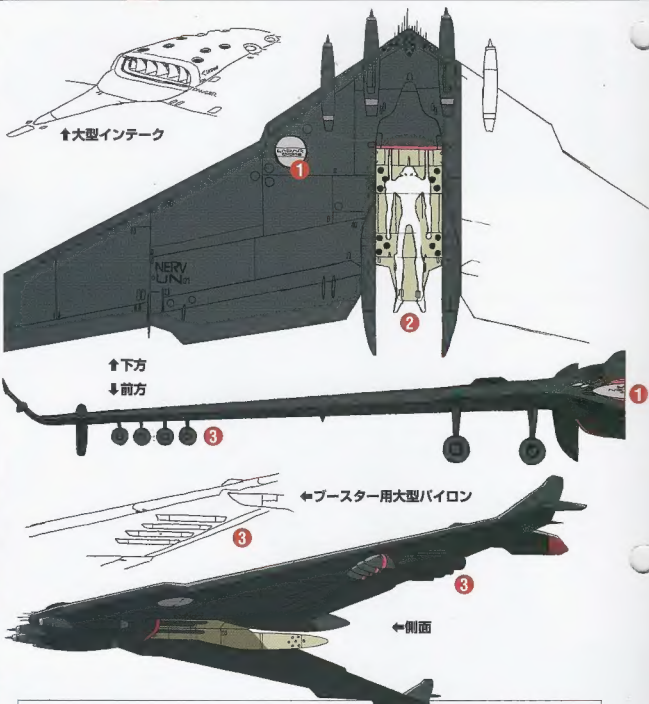
■ 第7使徒イスラフェル戦

■ 使徒捕獲作戦

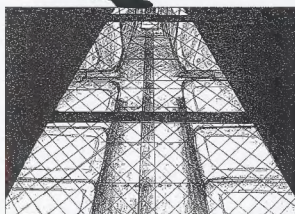
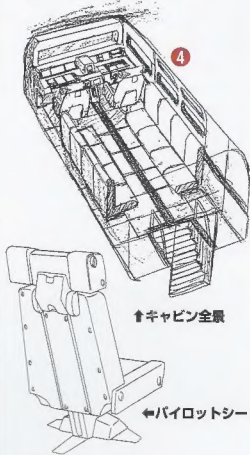
■ NERV



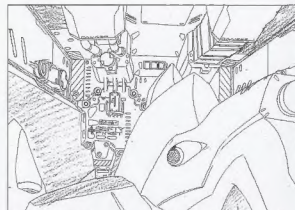
制御不能に陥ったJ.A.を止むために、高速度ミサイル駆逐艦「EVA」を運用。長距離輸送機でEVAをJ.A.母空母現場へと輸送した。



キャビン及びEVA収納カーゴ部分



↑搭乗者スペース



↑EVA収納カーゴ

タクティクスシート

actics Sheet

第15使徒アラエル戦

Sheet

25

THE FIFTEENTH ANGEL ARIEL ANNIHILATION BATTLE

Illustration by Juaa Rika MORIHA

第15使徒アラエル戦

衛星軌道上の使徒へ放たれた
ロンギヌスの槍

TACTICS SHEET

高々度で出現した使徒に対する迎撃手段。これは、第10使徒サハウィエル迎撃戦時に表面化した戦術面での大きな問題であり、以後の課題ともなっていたが、第15使徒アラエル戦においても、NERVはふたたびこの問題と直面することとなった。

対サハウィエル戦では降下してくる敵を迎撃したが、アラエル戦でも同様に目標の移動(降下)を待つて長々距離狙撃という方法以外に有効な戦術はなかった。そこで葛城三佐は零号機を狙撃手、パイロットの状態の思わしくない弐号機はバックアップというフォーメーションでの作戦を立案する。しかし、弐号機パイロットはこれに反発し、命令を無視して出撃。葛城三佐はこれを容認し、弐号機を狙撃手として作戦の実行に移った。だが、使徒は出現位置の高度を保ったまま、地上の弐号機に対し不可視な可視光線を照射。この光線は搭乗者への精神攻撃であり、弐号機のパイロットは精神に変調を来たしてしまい作戦続行は困難となってしまふ。結果、零号機が狙撃を試みるが射撃距離の壁は大きく、迎撃は失敗。一連の経過を静観していた碓ゲンドウ司令は、ここでターミナルドグマ内に第1使徒アダムとされる存在(のちにリリスと判明)と共に“保管”されていた特殊兵器“ロンギヌスの槍”の使用を零号機に直接指示する。ゼーレの許諾無しての槍の使用は禁止されていたが、それを承知の上での独断であった。零号機によって投擲されたロンギヌスの槍は、驚くべきことに一気に成層圏を突破するほどの超高速。一その衝撃波によって、作戦時、第3新東京市付近に停滞していた雨雲を一瞬で消滅させたほどであった——で目標に到達。さらに使徒のA.T.フィールドをも易々と貫通し、第15使徒はあっけなく撃破されたのであった。

最高司令官自らロンギヌスの槍の使用を指示、零号機をターミナルドグマへ向かわせたことは、一般に流布されている“アダムとEVAの接触”によるサードインパクトの危険性がないことを暗に示唆していた。それに伴い、セカンドインパクトが使徒との接触によって引き起こされたものではないとの仮説も成り立つが、これは推察の域を出ないものであることも追記しておく。

RELATED MATTERS

第15使徒アラエル

- ロンギヌスの槍
- ターミナルドグマ
- 碓ゲンドウ



衛星軌道上に出現した第15使徒アラエル。可視光線を照射、人の精神を侵襲する。ロンギヌスの槍により風滅された。

第15使徒風滅された。零号機と弐号機が連携して、大規模兵器「ロンギヌスの槍」を使用する。EVAの存在と同規模の巨大兵器の出現。日、碓ゲンドウ司令は、これを最終兵器と見做す。

タクティクスシート

actics Sheet

第15使徒アエル戦

THE FIFTEENTH ANGEL ARIEL ANNIHILATION BATTLE

大気圏外 射撃距離との戦い

EVAが地上より衛星軌道上的目標を直接狙うことは不可能であった。それにも関わらず作戦が実行されたのは、これまでの使徒の行動パターンから推察して、使徒もいずれはNERV本部に対して接近するものと推定されたためである。

第15使徒迎撃に際し、独断専行した式号機だったが、作戦はそのまま式号機を主狙撃手として実行された。式号機は連射可能なボジトロン20Xライフルを装備し、目標に対してロックオン体勢を取り、射程内へ移動するのを待って斉射攻撃するという手順であった。だが使徒に精神攻撃という手段で先制されたため、式号機は射程外にも関わらず、目標へライフルを2連射。だが、これはエネルギー光弾を構成する陽電子が、目標到達前に消失してしまい着弾せず。さらにパイロットが錯乱し、無闇にライフルを全弾乱射したため、市街地周辺に8発が着弾。被害をもたらす結果となってしまった。式号機のライフルの残弾数が底をついたことを発令所が確認した段階で、零号機がボジトロンスナイパーライフル改で長々距離狙撃を敢行。陽電子光弾の目標への到達には成功するが、距離がありすぎたためA.T.フィールドを貫くだけの出力を得られず、光弾は四散。NERVが所有する通常兵装では目標の撃破は不可能と判断され、かくしてロンギヌスの槍の使用が決断された。



1 ボジトロン20Xライフル【式号機】

TACTICS SHEET

カートリッジによる連射を可能としたボジトロン20Xライフルを装備した式号機であったが、使徒の精神攻撃を受け、搭乗者が錯乱。市街地を誤射してしまう。

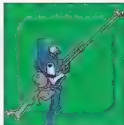


ボジトロン20Xライフルは、最も凶悪の中でも最も重宝をもち利用した衛星目標によって、大気圏外の目標をロックオンすることが可能である。

2 ボジトロンスナイパーライフル改【零号機(改)】

TACTICS SHEET

零号機が装備したボジトロンスナイパーライフル改は、出撃と同時に発射準備が進められていた。だが、射程を超えた距離にいる敵のA.T.フィールドは貫通できなかった。



大出力を誇るが、重さによる照準修正などが必要なボジトロンスナイパーライフル改をもってしても、大気圏外の目標に接近させるのが難航であった。

3 ロンギヌスの槍【零号機(改)】

TACTICS SHEET

狙撃作戦はことごとく失敗したため、特例措置としてロンギヌスの槍の使用を決断。零号機はターミナルコアに緊急降下。槍を持ち出し目標へ攻撃。これを撃破した。

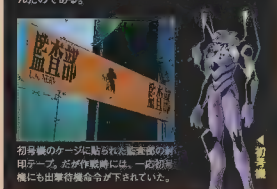


たがの段階ではあったが、槍の持つ特殊な能力は、大気圏外の目標を一閃で撃破させた。

特記事項

初号機の凍結

アラエルに際しては、初号機のバリエーションも出撃準備していたが、監査室より初号機は封印・凍結された状態であった。この措置は直前のゼルエル戦に於いて、初号機が空欄を取り込んだことと、女人との関係があるらしく、發令所が機体の保全を最優先としていたためと見られる。そのため、式号機が精神攻撃を受けた際、發令所は初号機パイロットによる出撃要請を却下し、ロンギヌスの槍の使用という決断に決んだのである。

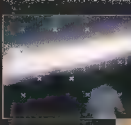


初号機のケーシングに貼られた監査室の封印用テープ。封印作戦時には、一部の封印用テープが剥がれていた。

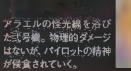
技術調査

アラエルの精神攻撃

使徒が式号機に照射した可視波長の光線は、分析の結果ではA.T.フィールドに近いものであった。だが、この光線に沿った直線から式号機パイロットの心理グラフは異常な波形を描き、EVA搭乗者の精神汚染を引き起こす精神攻撃と判断された。しかしながら赤木リツコ博士は、使徒が人間の「心」を握っていたかのような事実と報告している。いずれにせよ、第12使徒による使徒との精神的な接触であったらしい。



アノミが言ったように、単エネルギー光線だけではなく、搭乗者の精神に直接干渉する多層構造の攻撃だ。

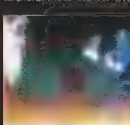


アラエルの怪光線に沿った直線、物理的ダメージはないが、パイロットの精神が侵食されていた。

作戦報告

ロンギヌスの槍の使用

大気圏外の目標を一撃で撃破したロンギヌスの槍だが、それが本格的な使用方法であったのかは不明だ。だが、発令所は槍が連射空撃力の切り落としと利用可能と当初より想定していたと考えられる。またターミナルコア内で、使徒の成長を阻止していたようにだが、この槍が目標撃破ののみ、月軌道へと移動したために回収不能な状況にあっては、本来の機能がいかなくなるのであったのかもしれない。



使徒の肉体に突刺して「撃破」してあるが、ロンギヌスの槍を引き抜く零号機。この槍は撃破と何らかの因果関係にあったと考えられるのが使徒であった。

▲ロンギヌスの槍

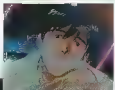
総司令が自ら再確認し、最終的に最大の危機。使徒の目標の入り口へ「緊急降下」し、主目的は副目的を生動的な働きと共に実行したことが確認されている。

●日本

A.D.2015

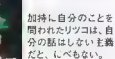
02 ミサト、リツコたちと二次会に参加

その頃、ミサトはリツコや加持と共にパーティにいた。ふと得意に立つミサト。今日の彼女が妙にはしゃいでいるように見えた。「浮かれる自分を抑えようとしてまた飲んで……。今日は遅か。そう速べる加持を、同様していた人の言葉は重みが違うとリツコがからかった。



あの同種はママコトのようだったとれない返事の加持。

加持に自分のことを聞かれたリツコは、自分の趣はしない主義だと、しべもない。



03 リツコ、加持に釘を差す

リツコの忠告を加持は軽く受け流した。土産と言って猫型のペンダントを渡す加持に、「京都、なにに行ってきたの？」と何気なく問うリツコ。あまり深追いするとヤケドすると、リツコは加持に忠告する。「どうせやけどするなら、君との火遊びがいいな。加持が冗談めかしたところへミサトが戻ってきた。「……花火でも買ってきましょうか」



結婚式の礼儀に身を払んだリツコ。シンブルをドレスが実面を後方らしい。

リツコをくどく加持の家に、愛わらないと笑れるミサト。いやぁ、愛わってる。生きるとして愛をかけることと、あいかわらずの加持。



両性性化してはいるものの、リツコは依然として「ママコト」な部分がある。リツコは「ママコト」な部分がある。リツコは「ママコト」な部分がある。

A.D.2015

05 ミサト、加持に胸の内を打ち明ける

ミサトは苦しい胸の内を加持に吐き出した。

肥満したミサトを送る加持。ハイヒールを手にしたミサトは、静かに任せて替のものを振り出した。「ごめん。あの時、一方的に別れ話して、ほかに好きな人がいたのは……あれ、嘘」加持が父に似ていると気づいて怖くなったのだ、とミサトは言った。父を憎んでいたはずの自分が、父に似た人をお気に入りになることが怖かったのだ。だがすべてを吹っ切るつもりで入ったNERVでも、彼女は過去に囚われていたのだった。



父を憎んで、父に似た人を好きになる。ミサトの胸の中を、加持は父に似ていると気づいて怖くなったのだ、とミサトは言った。



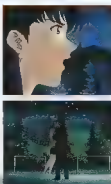
「……」加持は言葉を詰まらせて、みんなどうも「ママコト」な部分がある。リツコは「ママコト」な部分がある。

ミサトをおぶって歩きつつ、加持は「葛城がヒールを壊してたからな。時の流れを感ずるよ」と笑った。



06 加持、ミサトを受け入れる

「葛城が自分で進んだことだ。俺に謝ることはないよ」。加持は優しくそう告げたが、ミサトは激しくかぶりを振った。「父親という呪縛から逃げ出しただけ。シンジさんと同じだよ。臆病者なのよ……!」。そのまま自分自身をのしり続けるミサトの響き、加持の響が強引に悪いだ。



感情のコントロールを失ったミサトを引き寄せる加持。

知らずと上がりかけるミサトの腕。だがそれが加持の背に掴まれることはなかった。

加持、ミサトを受け入れる

ミサト、加持に胸の内を打ち明ける

アスカ、ミサトと加持の仲を疑う

シンジ、ミサトから連絡を受ける

A.D.2015

●第弐中学校

09 シンジ、
レイの欠席を気にする

翌日、シンジとアムカはいつもあり、学校へ登校した。朝の日差しが差し込む2-Aの教室。外では相変わらず、輝がやかましい囁き声を立てている。担任が出席を取りはじめた。女子の1番は綾波レイだ。だが、教室内にレイの姿はなかった。「……お？ 綾波は今日も休みか。教師の言葉を聞きつつ、シンジは意の外をじっと見ていた。



PCの画面に見入るアムカ。どこか怪かな、瞼つきで机の上に置かれているシンジ。ふたりの視線は合っている。



朝の日差しは強かれていた空気の空間。レイは今日いかに学校を休むことができたか。

A.D.2015

●セントラルドグマ

10 ゲンドウ、レイと共に極秘実験を実施

謎めいた実験の最中、ゲンドウはレイと微笑を交わす。NERV本部の大深度地下施設中央部。通称セントラルドグマと呼ばれる場所である極秘実験が行なわれていた。多数のパイプが絡まりあうように連なり、細い透明なチューブにつながっている。試験機のようなそのチューブ内には、全裸の綾波レイがたたずんでいた。さらにチューブの前



地下に設置された装置のなかでレイは眠った。目の前のレイは、眠ったままに目を開いた。ゲンドウもまた、それに応えるように薄い笑みを返すのだった。



広大な空間。周囲の床には暖かみのある赤い光が照りつけ、可思議な文様が描かれ、鼓動がとも呼ばれ、もつたふたふた、不思議な音が響いていた。



目を閉じたレイは、表情を完全に失った。その顔には、かたじけなくも、またかたじけなくも、何もなかった。

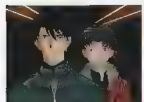


笑みを返すゲンドウ。レイの顔には、かたじけなくも、またかたじけなくも、何もなかった。

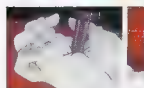
●ターミナルドグマ

13 ミサト、アダムと対峙

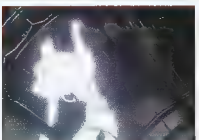
地下に隠されていたものは極端に見た巨人だった。電子ロックが解除され、重いゲートが音を立てて上下に開きはじまった。加持を警戒しながらもゲート内に目をやったミサトは、目前に現れたものに、目を見開く。「これは……!」それは、想像外の光景だった。巨人は十字架に異形の巨人が張りつけにされている。釘状の楔で打ちとめられた大きな手。胸を深々と貫く巨大な槍。ミサトの脳裏を古い記憶が揺らめいた。セカンドインパクトの起きた南極。父に抱かれ、腫瘍とした意識のなかで壊れた闇夜の機関から垣間見えた光の巨人……。目前の巨人は、それとよく似ていた。



目前に突きつけられたものは、想像外の光景だった。巨人は十字架に異形の巨人が張りつけにされている。釘状の楔で打ちとめられた大きな手。胸を深々と貫く巨大な槍。ミサトの脳裏を古い記憶が揺らめいた。セカンドインパクトの起きた南極。父に抱かれ、腫瘍とした意識のなかで壊れた闇夜の機関から垣間見えた光の巨人……。目前の巨人は、それとよく似ていた。



地に買かれた白い体躯と失われた下半身。彼面には、その数センチある7つの目が描かれている。明らかに既判の生物ではなかった。



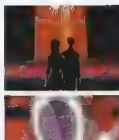
悪夢の記憶が呼び覚ます。父を失ったあの日。涙が止まらぬ。父の顔を思い出した。その時、父の顔が、目の前に浮かびあがった。



後、水の中を歩いた。目撃した。その時、父の顔が、目の前に浮かびあがった。

14 ミサト、
NERVの真意に疑問を持つ

「EVA? いえ……まさか!」愕然となるミサト。加持がうなずく。その、セカンドインパクトからそのすべての要であり、始まりでもある……アダムだ!「アダム。あの第1号機がここに……!?」。ミサトは絶句し、そして表情を深く引き締めた。「確かに、NERVは私が考えているほど甘くないわね」。彼女のなかでNERVに対する疑念が芽生えつつあった。



依性機体機体であるNERVになぜアダムが——ミサトは疑を突きつけることも恐れ、目前の存在を認識した。



日本総局の内務である加持から知らされた驚くべき真実。特務機関NERVの実態に、ミサトは改めて疑問を抱く。

ゲンドウ、レイと共に
極秘実験を実施

ミサト、
加持を制止する
ターミナルドグマに潜入



加持、ミサトにNERVの
秘密を打ち明ける



ミサト、
アダムと対峙



ミサト、NERVの真意に
疑問を持つ

旧東京

日本の中心「東京」破壊の経緯

西暦1868年以降——「東京」と改称されることになったこの地は、幾度かの災害に見舞われながらも、常に日本の首都として機能してきた。1923年、伊豆大島、相模湾を震源として発生した直下型の大地震により東京都、神奈川県、千葉県、静岡県といった南関東地方の広い範囲に被害をもたらした関東大震災。そして1945年、第二次世界大戦中、アメリカ軍により敗行され、とりわけ民間人に大きな被害を与えた空襲として知られる東京大空襲——。それらの壊滅的な状況から奇跡的な復興を遂げてきた東京は日本の中心であり続け、大戦以降に急成長を遂げ、世界有数の大都市として築えてきた。

しかし西暦2000年、その東京を壊滅に追い込む未曾有の大災害が発生した。2000年9月13日に発生したセカンドインパクトと、同年の9月20日に発生した、テロリストによる新型爆弾の投下である。前者は国土が変化するほどの自然災害であり、後者は50万人もの死者を出す人災だった。東京と改称されてから130余年、これまで様々な危機を乗り越えてきたこの地も、ついに首都としての復興を断念。日本の中心としての役目を終えるに至り、以降は「旧東京」と呼ばれることとなる。ちなみに、セカンドインパクトは「人災」であり、東京を襲った一連の災害は「何者かの壮大な計画の一部だった」と見る向きもあるが、その真偽は定かではない。



設置計画

- 第3新東京市
- 第2新東京市
- 再開発臨海部



第2次設置計画によって決定された新首都として、戸ノ瀨のほかに建設が進められている対岸発達部開業都市。



セカンドインパクトとテロリズム ふたつの要因による都心部の壊滅

セカンドインパクトによる混乱の最中、テロリストに投下された「新型爆弾」により、50万人の死者を出した東京。折からの海水面上昇によってほぼ壊滅していた都心部はさらなるダメージを受け、政府（当時の日本臨時政府）は速やかに新首都の選定に専念。東京の首都としての復興を断念した。ただ、水没した都心部部分は封鎖されたものの、東京都全域が壊滅したわけではなく、内陸寄り地区はこれらの被害を免れている。

なお、テロに使用された新型爆弾は、その威力から「n爆弾」であったとも言われているが、その真相は明らかになっていない。



旧東京市二重区など、都心から離れた場所ではセカンドインパクトとテロの被害を免れた地域もあった。旧東京市、として行政区分され、市町村がそのまま区になったように。

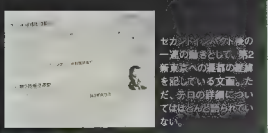
首都機能移転の経緯と 一都市としての復興

旧東京の復興をあきらめた日本臨時政府は、首都機能を暫定的に長野県松本市に移転することを決定。当該地が選定された理由は定かではないが、同市を「第2新東京市」と改称すると共に、従来の東京を「旧東京」と改称することとなる。その後、第2次遷都計画に基づく新首都「第3新東京市」の建設が始まったという新たな都市の建設が進行する中、旧東京は比較的被害の少なかった内陸部を中心とした「旧東京市」として復興が進められる。特に旧東京海岸については、埋め立てによる再開発が押し進められ、再開発臨海部として機能するに至った。

特記事項

旧東京の復興を断念した理由

セカンドインパクト後、日本臨時政府は、新型爆弾により壊滅した旧東京の復興を断念したとされている。無論、セカンドインパクトによる被害も甚大であったが、テロが発生しなければ、政府は旧東京復興への道を模索していたとも考えられる。混乱し速やかに作戦を実行する行動力、新型爆弾を入手し得る組織力が、現実の規模の組織が与えられたと考えられるが、その実現が真の目的はなされていない。

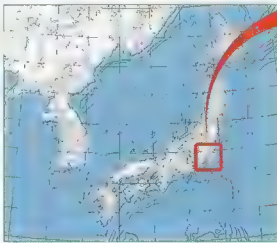


地球規模の大震災と 二次的被害の影響

本頁の大震災、セカンドインパクトによって南極の水が一瞬にして融解。それに伴う津波、海面上昇、全世界規模の異常気象が発生した。さらに世界各地では内戦が勃発するという二次的被害が拡大し、世界人口の半数が失われた。

●旧東京および周辺の地形変化

旧東京周辺の地域では、海面が数十m上昇。東京湾より程近い旧東京の施設の大半は海水に没した。旧東京国際空港などの主要な交通機関も水没したため、一時的に国内外への移動が制限されたことは想像に難くない。仮にテロが発生しなかったとしても首都機能の回復は困難だったと推察される。



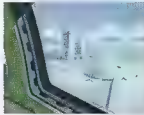
水没地域（青） セカンドインパクト後の地形（緑）

旧東京の再開発と 日本国政府の狙い

水没した旧東京では、まず沿岸地域で大規模な埋め立て工事が進められた。この建設については環境主義で行なわれた第3新東京市とは異なり、日本国政府主導で進められたようだ。旧東京再開発臨海部と呼称されるこの地域に「国

●旧東京再開発臨海部

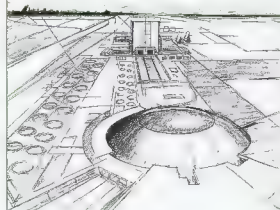
すでに首都機能を他に移管された旧東京において、再開発臨海部は主に日本国政府と繋がりが強い企業に利用された地域となった。ちなみに、日本重化学工業共同체가発行した大型自衛兵器「J.A.（ジャットアローン）」の建設運搬が行われたのも、この地域に建設された国立第3実験場だった。



整備の行き届いた旧東京再開発臨海部。整然とした周辺地域が、この領域は埋め立てとどめられておらず、新型爆弾の超音速によりガラス化した地面が広がっている。

旧東京、特に臨海部の再開発は、第3新東京市の建設を上回るスピードで進められた。ただ、国立の実験場を建設するなど、そこには日本国政府の思惑が見え隠れする。

立脚3実験場」が建設されていることから見て、地域一帯の再開発が政府主導であったことは間違いないだろう。ちなみに、旧東京都心は第2次置置区域とされ復興しているものの、一応は海岸地域と併せて再開発の対象となっているようだ。

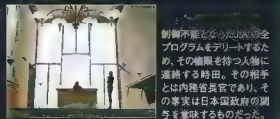


// 追加報告 //

日本重化学工業共同体と日本国政府

J.A.を建造した団体—— 経団連が代表を務める日本重化学工業共同体。同共同体は、向かうは日本国内の重化学工業企業共同の場に設立されたと言われている。だが、軍備ミサイルが「ガチの利権」であったと評しているように、実際にはNERV本部や、第3新東京市の建設に携わることができた企業のみで構成された連合体との見方もある。

ちなみに日本重化学工業共同体は、日本国政府の肝煎りとも言われている。NERVが保有するEVAに対抗し得るJ.A.の開発に力を入れている。日本国政府の思惑があるとの見方もあるが、その真相は明らかになっていない。ただ、そのJ.A.の全プログラムをテリートする権限を持っている人は内務省長官であった。さらに、一般企業には入手し得ないEVAの情報を入手していた専門家などを考えると、日本国政府が関与していると考えられるのが実態といえる。



未知数なJ.A.と、それを駆使させたEVA同体。足下で整備されたJ.A.の情報が受け取られることから、伊心が解する危険もある。J.A.は旧都心部に再開発していたのを見られる。



「プログレッション・アーム」(PK-01)を手にしたEVA初号機。同機体の主兵装として採用されたPK-01は初号機の「プログレッション・アーム」が、その攻撃力については改良型のPK-02と比べて凄異なものだった。

EVA格闘武器類

EVA COMBAT ARMS

西暦2015年、御殿場近圏に上陸した使徒を迎撃したのは、国連軍——実質的にはセカンドインパクト後に国連軍に編入された自衛隊の戦力だった。しかし陸上自衛隊、航空自衛隊の保有する戦力はまったく盡が立たず、絶対的威力を持つと考えられていた「地雷」すら、使徒を足止めするにどまらなかった。使徒対国連軍、その一部始終を他人事のようには眺めていた特殊機関NERVの副司令官、冬月コウゾウは「やはり、A.T.フィールドか」と呟き、それを受けた最高司令官の砲げンドウは「ああ、使徒に対して通常兵器では役に立たんよ」と応えている。この会話は、NERVがA.T.フィールド(Absolute Terror Field)の存在を認知していたことの証左である。さらに「通常兵器」という表現は、それ対になる「特殊兵器」の存在を示唆しており、それはA.T.フィールドが展開可能な汎用人型決戦兵器・人造人間エヴァンゲリオンを指していると思われる。これらの事実から、NERVは以前から使徒戦を換討し、A.T.フ

ィールドの特性把握や対抗策の確立に着手していたと考えるのが妥当であろう。使徒のA.T.フィールドはEVAの展開するA.T.フィールドで中和(無効化)可能である——その確証をすでに得ていたNERVは、主にA.T.フィールド中和後の使用を前提とした各種兵器の開発に着手する。

戦術面を考慮すれば、強力な銃火器が必要とされるのは当然である。しかし、A.T.フィールドを中和するには、それを展開している使徒への接近が不可欠であり、格闘武器類の開発にも同様に力を注ぐ必要があった。そこでNERVは、ほとんどの格闘武器に分子結合を切断し得る超高速度運動機構を備えた特殊ブレードを採用。使徒の強固な外部装甲やコアにダメージを与えられる強力な格闘武器を揃え、使徒との様々な戦いに対応し得る装備を整えた。事実、NERVが開発した武器はA.T.フィールドさえ中和すれば十分な効果を発揮しており、特に格闘武器は何体もの使徒を切り裂き、その効果を実験で証明するがたちどなった。

ちなみに第3使徒襲来以前に、秘密結社セーレはA.T.フィールドに対して絶対的な突破能力を誇る口

ンギヌスの槍をすでに発見していた。この巨大な槍を使用し得る存在——EVAも完備に至っていたため、早期に決断していれば、武器として運用することも可能ではあった。しかし、ロンギヌスの槍は第15使徒戦において初めて「投擲武器」として使用された後、月軌道に達したため回収不可能となった。その名の通り「槍」に分類される絶大な威力を持った同武器ではあったが、その特異性と稀少性から(あるいは使用自体をゼーレから禁じられていたためか)、格闘武器として使用されることはなかった。また、後にロンギヌスの槍と比べても遜色のない能力を有する大剣が完成に至ったが、これはEVA量産機用の装備として配備され、EVA零号機、初号機、式号機用には与えられることはなかった。



格闘武器類の必要性

現用兵器による突撃は困難と考えられている不可侵領域——

A.T.フィールドを持つ未知の敵、使徒。A.T.フィールドを破れるのは、A.T.フィールド（あるいはそれに匹敵する圧制的な火力）だけと言われている。ふたつのA.T.フィールドの位相差を同調、中和することで無効化が可能となるため、

A.T.フィールドを展開できるEVAが対使徒戦における主戦力とされたことは必然といえよう。ただし、A.T.フィールドの展開可能範囲には限界があり、攻撃を加えるためにはEVAが使徒に接近する必要がある。使徒との戦闘は自ずと接近戦が中心となることが予想されたため、プログレッシブ・ナイフを始めとする強力な格闘武器類の開発が急務となったのである。

取り回しに優れるプログレッシブ・ナイフ。他の格闘武器類と比べて小規模だが、ブレード部分に高振動粒子が埋め込まれたため十分な貫通力を持っていた。



ソニックグレイブなどリナのある格闘兵器類も用いられた。なお、ブレード類には、プログレッシブ・ナイフと異なり高振動粒子が埋め込まれていない。



追加報告

ロンギヌスの槍について

二聖遺物の構造を持つ二股の槍——、ロンギヌスの槍。「真死海文書」の記述を頼りにして発見されたとも言われるこの武器は、A.T.フィールドを無効化する能力を持つとされており、2015年にはNERV本部、ターミナルGに安置されたアダム（後にリリスと命名）に突き立てられていた。なかばNERVの所有物と明した同武器だが、その存在はほとんど知られておらず、第15使徒戦において「抜動武器」として初めて使用された後、月動機に運じたため回収不可となった。その名の通り槍に分類される絶大な威力を持った同武器ではあったが、その特殊性と取り回しの悪さから、格闘武器として使用されることはなかった。

状況により形状が変化するロンギヌスの槍。対象を破壊された後、先端が本に集約され、電OVA千フィールドを買った。



ロンギヌスの槍のレプリカとも言われる。EVA量産機の大剣。こちらは受動型の大A.T.フィールドを無効化する程の強力な格闘武器だった。



EVAが使用する格闘武器の種類と特徴

NERVの技術を結集して開発された格闘武器類。種類こそ少ないものの、基本的には高振動粒子のブレードを持ち、最近戦においてはバレットライフル等の銃火器類も凌駕する

威力を有していた。使徒に接近する必要があるため、その破壊力はさらなる危険域に足を踏み込むことを余儀なくされたものの、その威力は数々の実験において見事に証明された。



◆ プログレッシブ・ナイフ ①

高振動粒子のブレードを持つ小型のナイフ。攻撃範囲は極めて狭いものの、取り回しに優れており、近接戦闘において初号機と零号機は、人型のサバイバルナイフと同様の形状をしたPK-01を使用。EVA二号機はPK-01の改良型で、ブレードを鞘の中に収納できるカッターナイフのような形状をしたPK-02を使用している。PK-02については、ブレードが破損した場合、切っ先を折り直すことで再使用が可能となるなど、利便性に優れる。

なお、常にEVA本体に収納されている兵装は、このプログレッシブ・ナイフのみである。

◆ ソニックグレイブ ②

長い柄を持つ刀型の格闘武器。プログレッシブ・ナイフと同様に、高振動粒子のブレードによって敵を分子レベルで切り裂くことができる。携行するには不向きだが、その利点を活かした戦闘が可能となる。

◆ プログレッシブ・ナイフの携行

使徒戦の多くで、A.T.フィールドを中絶するため結果的に近接戦闘をこなすこととなったEVA。当然、NERV側もその事態を想定しており、EVAの胸部装甲にはプログレッシブ・ナイフなどが収納できるウェポンラックが設けられている。使徒戦においてはまず、中距離から銃火器で牽制することが多かったが、最終的にコアにダメージを与える際は、プログレッシブ・ナイフが用いられることが多かった。ちなみに、NERVは第8使徒は捕獲作戦のような特殊な事態も想定しており、実験的作戦を遂行した試号機（D型機体）の胸部には、プログレッシブ・ナイフを携行するためのベルトが用意されていた。



胸部使徒を攻撃するにあたり「プログレッシブ・ナイフ」は十分に口にしたが、多分、高振動粒子の威力も考慮して、実験的作戦において使用された唯一の武器は、プログレッシブ・ナイフだった。限界高度を超えてもなお、その形状に変化はなかった。

◆ スマッシュ・ハンマー ③

主に両手持ちで使用する。巨大な片刃斧。取り回しが難しくEVAの動きが制限される反面、その大量量と高振動粒子ブレードが生み出す打撃は、格闘武器内でも突出した攻撃力を与えると思われる。

◆ ニードル射出装置 ④

右胸部装甲（ウェポンラック）に装備可能な、7連発のニードル射出装置。射出後は牽制しきもが排出される。実質的には遠射銃と見られるが、その用途から近接戦闘用の格闘兵器に分類するのが妥当であろう。

海上空域にEVAが使用した武器としてEVA-05の機体があるが、この兵器はNERV機内にも存在していない。また、大剣（ロンギヌスの槍レプリカ）の存在も確認できず、恐らく、両武器はEVA量産機の兵装である。



プログレッシブ・ナイフの携行（抜動）形態は、上記の1/4ウェポンラックへの収納方法がPK-01、02とも共通で、使用時には柄の前方に突出し機体となっている。なお零号機については、後述と同形状の装甲板がウェポンラックが取り付けられるまで、プログレッシブ・ナイフの収納場所も存在しなかった。

■格闘武器類の使用例と効果

格闘武器の種類はさほど多くないが、それら近接戦闘においては主兵装として活用された。実際の対使徒戦では、敵のタイプにより他の武器と併用するなど、運用戦術により携行装備が選択されていたようだ。なお、実際に使徒を仕留め得た格闘武器は、最も利便性に優れたプログレッシブ・ナイフのみであった。しかし、敵A.T.フィールドを中和し得る近接戦闘において、いくつかの格闘武器を用意することは必要不可欠であったに違いない。



●プログレッシブ・ナイフ



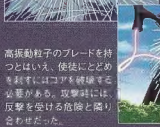
攻撃目標

第4使徒
シムシエル
第6使徒
ガゼル
第8使徒
サンダルフォン

対第4使徒戦以降、様々な作戦でEVAが使用したプログレッシブ・ナイフ。この武器は常にEVAのウェポンランチャーに収納されているため、他の炎火器類による牽制後、速やかに手に取って近接戦闘に移行できるなど、利便性に優れていた。質量的にはソニックグレイブやスマッシュ・ホークにも劣るため、威力も小さかったとの推察できるが、対使徒戦においては最も適した非常に優秀な武器といえる。

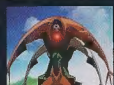


使用頻度が多く、対第4使徒戦では敵のコアを破壊したプログレッシブ・ナイフ。他にも第10使徒のコアを破壊するなど、活躍の機会が多かった。



高速度自刃のブレードを持つとはいえ、使徒にも破る必要が少なく、攻撃時には反響を受け危険と隣り合わせだった。

●ソニックグレイブ



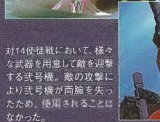
攻撃目標

第7使徒
イスラファエル
第14使徒
ゼルエル

対第7使徒戦の初戦で武器類が使用したソニックグレイブ。第7使徒を一刀両断し切れ味の鋭さを見せたものの、それが実際に切り裂いたためなのか、同型の2体に分裂するという第7使徒の特性によるものだったのかは不明である。なお、対第14使徒でも、式号機の武器のひとつとして用意されたはものの、使用前に式号機が沈黙させられたため、実際に敵をとらえることはなかった。



殺傷能力は非常に高いと思われるソニックグレイブ。ただ、迎え撃つ敵との相性を誤ったと、その一撃で敵を刺すに至るもなかった。



対14使徒戦において、機体ダメージを増強して敵を沈黙させた式号機。敵の攻撃により式号機が両輪を失ったため、使用されることがなかった。

●スマッシュ・ホーク



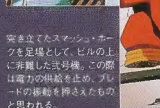
攻撃目標

第12使徒
レリエル

対第12使徒戦において、武器類が携行したスマッシュ・ホーク。第12使徒は空中に浮かぶ球形の影と、平面的な実体を持つ特殊な使徒であったため、格闘武器としてのスマッシュ・ホークが活用されることはなかった。ただ式号機は、内向きなA.T.フィールドによって支えられた実体に飲み込まれかけた時、同武器をヒル受発用の道具として活用、敵に取り込まれることを免れた。



スマッシュ・ホークを横行し、第12使徒を持ち受ける式号機。その大きさと相性の悪さから、敵を攻撃できず、式号機も両手持ちで使った。



空を飛ぶスマッシュ・ホークを捉え、その上に乗り込んだ式号機。この能力の弱さを始め、ブレードの回転を抑えたいものと思われる。

●ニードル射出装置



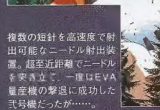
攻撃目標

エヴァンゲリオン 量産機

NERVとゼーレの対立が表面化した本格的な侵襲が始まった後、NERV本部上空に現れたEVA量産機。これを迎え撃つ式号機は、量産機に対しニードル射出装置を使用した。ニードルは超距離にわたる敵の頭部を買いたが、空機間を持つ敵を沈黙させるには至らなかった。なお、ニードル射出装置は量産装甲に内蔵するタイプの武器で、実際にこれを使用した機体は式号機のみだったようだ。



右側のウェポンラックに内蔵されたコード兵装射出装置。発射時の機構はプログレッシブ・ナイフと類似している。なお、装置自体は新規開発である。



複数の狙撃を高速で射出可能なニードル射出装置。量産型甲冑（コード）を架装して、一度はEVA量産機の撃退に成功した式号機だったが……

格闘武器類の構造

プログレッシブ・ナイフ、ソニックグレイブ、スマッシュ・ホークといった格闘武器のブレード部には、外部からエネルギーが加わり、超高速で自動運動を行う特殊な粒子「高振動粒子」が採用されている。この高振動粒子は接触した物質の分子結合力を作用し、その結合力を無効化する。ゆえに、理論上ではあらゆる物質を切り裂くことが可能であり、使徒を構成する物質にも有効とされた。事実、極めて強固な構造を持つ使徒のコアさえも、的確にとらえさえすれば十分破壊可能であった。

なお、A.T.フィールドを中和しているに関わらず、ほとんどの射撃攻撃を受け付けない強固な外装甲を持つ使徒も存在した。こういった敵と対峙する際にも、高振動のブレード部を持つ特殊格闘武器の存在は必要不可欠だったといえる。



第10使徒サハクエルのコアに突き立てられたプログレッシブ・ナイフ。他の格闘武器にも、的確な攻撃によってコアを破壊すれば、同様の効果が期待できたはずだ。

使徒襲来を予見した開発

通常の格闘武器の貫通力は、押し出す力、速度、質量の大きさに、対象との接触面積の小ささに応じて強さを増す。EVAが使用するサイズにスケールアップされた武器であれば、強大な貫通力で対象をとらえることが可能だったと推察できる。その運動エネルギーのほかにブレード部に高振動粒子を採用することでEVAの格闘武器はさらに力を増すこととなった。

そういった過剰なまでの力を有する武器が必要とされた理由は、後の使徒戦で明らかになる。EVA自体は使徒襲来を予見して建造された兵器だが、そのEVAが使用する武器もまた、使徒の脅威を予め考慮して開発されたと考えるのが妥当であろう。なお、使徒襲来についてはゼーレが有する「裏海文書」に記述されていたと言われているが、各機体の特徴までもが記されていたかは明らかになっていない。



A.T.フィールドへの効果も確認されたプログレッシブ・ナイフ。対第10使徒戦では、的確な攻撃によってA.T.フィールドすらも切り裂いた。

分子レベルの破壊を可能とする
高振動の特殊な粒子「高振動粒子」

未知の敵に対抗し得る
過剰なまでの武器開発

格闘武器類の運用と接近戦がもたらすもの

接近戦の意味

NERVの技術の粋を結集して開発された格闘武器類、特にプログレッシブ・ナイフが重要な役割を果たしてきたことは、先に述べた通り。対使徒戦において強力な銃火器類に匹敵する結果を残しているのは、ひとえに敵に接近することでA.T.フィールドを中和し、使徒の弱点であるコアを的確に攻撃できるためである。ただ、接近するに従って危険度が増し、EVAは少なからずダメージを被っている。EVAと操縦者の神経は双方向に交流、同調しているため、EVAに対する攻撃は操縦者にも伝わり、痛みもまたフィードバックされる。接近戦において操縦者は常に負傷、最悪の場合は死と隣り合わせの戦いを強いられていたといえるだろう。

A.T.フィールドを中和するためには、ある程度使徒に接近する必要があった。そのため反響を受ける機会も多く、操縦者は度々危険に晒されることになった。



NERV本部の発令者から神経伝達の遅延が起きる。緊急時には、短時間でなくても精神的にEVAパイロットの神経伝達線を通ずることもあったようだ。



特記事項

EVAの暴走について

EVAが多大なダメージを受けた際や活動限界を過ぎた際などは、暴走と呼ばれる特殊な状態に陥ることがある。暴走したEVAは圧倒的な戦闘力を発揮するものの、操縦者やNERV本部発令所による制御を受け付けなくなるため、接近戦を仕掛ける際には細心の注意を払う必要があった。ただし、初号機の初戦（対第3使徒戦）においては、暴走命令者のゲンドウと副司令官の冬月コウジのあいだで暴走状態とすることを予定していたかのような会話が交わされており、意図的に接近戦を行なせた可能性が考えられる。ちなみに、戦野中に暴走した機体はEVA初号機のみだが、EVA機号機については起動実験中の暴走が確認されている。



操縦者や発令所による制御を受け付けず、破壊的行動を取るEVAの暴走。結果的にこの暴走が、対使徒戦において最も勝率のよい攻撃となっている。

第3使徒との交戦中に暴走したEVA初号機。これを見た冬月は暴走による勝利を予期していたかのように「勝ったな」とほめ、ゲンドウも無言でこれに同業した。



第6マルボルジェ

セントラルドグマ内の施設のひとつ。衛星軌道上の第15使徒アラール機滅亡のためロングキスの機を運ぶ際にEVA番号機が通過した。セントラルドグマの10番から15番を解したものに通過した旨のアナウンスがあることから、15番から16番付近に位置すると推測される。なお、「マルボルジェ」はダンテの『神曲・地獄篇』に登場する第6層目の地獄であり、その第6層は偽善者が責め合う苦悶の地獄である。マルボルジェも参照。

第666プロジェクト

ゼーレにより各国のMAGIタイプコンピュータからNERV本部のMAGIオリジナルにハッキングが仕掛けられた際、赤木リツコが自律防衛のために使用した対ハッキングプログラムの名称。プログラム起動後、62時間は外部侵入が不可能となる。NERV内ではBダナン型防壁とも呼ばれている。ちなみに「ダナン」はベトナム中央部の都市の名前。



このプログラムが実行されたため、ゼーレはNERV本部の暗匿を排除を断念することとなる。その後、朝晩自衛隊による本部周辺治安占拠を強行することになった。

鷹巢山

神奈川県足柄下郡箱根町にある、NERV本部防衛の要衝である駒ヶ岳の東側に位置する標高834mの山。湯坂道が通じており、小田原北条氏が築いた鷹の城跡がある。第3使徒サキエルが襲来した際、国連軍がこの鷹巢山においてCPT地雷を使用した。



●地層の隆起時に、山をもくもくする巨大なクレターが生じた。
●地層の威力と、それを認む使徒のA.T.フィールドの衝突による爆発している。

高橋観

第3新東京市の市議選挙立候補者。プロフィールは、1960年生まれ、東京都のS4校。1982年国立大学卒業後、東京の某出版社に就職。1989年映画製作部門に配属され1991年よりプロデューサーを務める。2000年、退職後に地元へ帰郷し、以後は政治家として活躍。ウグイス嬢のアナウンスによれば「正義と真実、クリン心を持ち主」らしい。なお、彼の選挙カーのおかげでEVA操縦者たちはケジヒと息ぎ、従グンドが人力でEVAの起動を行うなど奇蹟もなった。その結果、第9使徒マルリアル機滅亡につながっているため、影の功労者ともいえる。



高橋観の選挙活動を行っていた選挙カーは日向マコトに盗取られ、第3新東京市のゲートから本部内を通り、第1集会所まで乗りつけ使徒襲来を告げている。

高橋観のウグイス嬢

軽ワゴンの選挙カーで、高橋観の選挙活動を行っていたウグイス嬢。マニュアル通りのアナウンスだけではなく、第3新東京市が停電した際には、「こういって非常時にも動かない高橋、高橋観をよろしくお願ひ致します」と臨機応変な対応ができる女性のような。なお、日向マコトにより選挙カーが没収されたときは、「当管区内における非常事態宣言発令に伴い、緊急車両が通ります」というアナウンスを臨時で行っていた。



本部ゲートに強行突入する際、突っ飛び運転に乗っていた京の有名なウグイス嬢。

ただいま

帰還を意味する挨拶。綾波レイがリリスと同化する際に「ただいま」「おかえりなさい」のやり取りが見られた。これはレイの身体にリリスの魂が移されていたためかもしれない。また、綾シヅが第3新東京市を離れることを、悲しげに望み、彼は葛城ミサトに「ただいま」と言っている。シヅジと違って、知らない場所であったミサトと自分の生活を、自分が帰るところと認めることができたというだろう。



ミサトのマンションは、第3新東京市におけるシヅジの「ただいま」を言う場所だった。

タプリス

フィヤステルドレン-ヴァカラルとして、ゼーレが直接NERVに送り込んだ第17の使徒。ゼーレによりサルベージされたアダム、ダムの魂が宿されているというが、真相は不明。EVAとのシンクロ率を自らの意志で自在に設定できる能力を持つ

か、光波、電磁波、粒子をも遮断する、葛城ミサトに絶頂と言われた強力なA.T.フィールド展開能力を有す。人の心を探ろうとした第15使徒アラール、EVAの物理的接触を行なった第16使徒アルミスエルに続き、EVA操縦資格者たる綾シヅジとの一時的接触も取り、友人関係まで結んでいく。また、綾波レイとの接触も図り、彼女を「自分と同じ」と称した。EVAとの同化能力をもって発号機を操り、アダムのあるとされるタリマナダムノ森奥部までたどり着くが、そこにあるものがダムではなくリリスであることを見破る。その後タプリスを追撃していったEVA初号機に阻害された。なお、「タプリス」は、テュアナのアポロニウスが執筆したとされる「ヌクテメノン」に記されている時間の鬼神、ゲニウスと呼ばれるデーモンのうちの六時のデーモンのひとりで自由意志を有する。



完全なヒトの形を持つ使徒はタプリスのみだった。ヒト型だからこそシヅジやレイとの接触が可能だったといえるだろう。

魂

肉体に宿るとされているもの。心の働きを司り、生命活動の維持に貢献するものとも考えられるが、そのあり方についてはさまざまな捉え方がある。赤木リツコの言によると、「魂のないEVAには人の魂が宿らせてあげます」といふ。それはサルベージされた魂だといふ、遺族者たちの母親の魂とも推測される。一方、綾波レイはエントリープラグを「魂の座」と呼ぶ。そのレイは魂られた物であり、魂の容器として多くの肉体を持つもの魂はひとつに宿らず、死亡時に魂だけが次の肉体へ受け継がれている節が見られる。彼女は最終的にリリスとされる存在へ因循しており、レイの魂はリリスのものであった可能性が高い。そしてゼーレの言によると、落カタルの中にはサルベージされたアダムの魂があるらしい。また、「人の心、魂のデジタル化はできない」ため、ダミースシステムには複製された魂が込められているという。しかしながら、綾シヅジがEVA初号機に取り込まれた際、後の「魂」というべきものはエントリープラグ内に存在しており、そのサルベージは「肉体を再構築し、精神を定義させる作業」であった。これらことから、本来は曖昧な概念である魂というものを、NERVやゼーレは何らかの具体的な存在として捉えていることが分かる。なお、ユダヤの伝承にあるガフの物語には、生まれ出る全ての魂が集まっているという。その際がサー・ドレイントウグに繋がれた際、冬月コウジは「世界の始まりと終焉の月」と称した。そして人間の始源とされるリリスの第一黒き月に、彼は「今更その夜の中へ還るとは望まぬ」とひとりごちる。黒き月は、人間の魂にとってのガフの部屋といえる。



初号機には「彼女」の意志が宿っているという。それがシヅジの時、レイの心とならぬのかは定かではない。

ダミーシステム

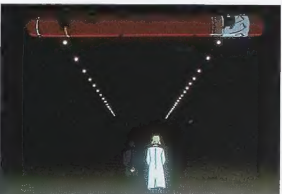
操縦者なしでEVAの活動を可能とするシステム。操縦者の思考パターンを模倣して信号パターンを送り込み、EVAに操縦者があると同調させることでシミュロ可とする。この開発にあたって第1回機体相互互換試験などが行われており、EVA初号機及びEVA試号機に搭載された。試作段階のものは綾波レイのパーソナルが移植されており、システムのコアとなる部分は複製されたと思しき彼女の生体がいわれている。第13使徒バルディエルとの戦闘において初めて使用され、過剰なまでの攻撃性を発揮して使徒を破壊、その有効性を見た。また、システムへの切り替えは発令所から行なわれるように、碓氷シヅ子が発令所からの指示を拒否した際、操縦者の意志に関係なく発令所からの指示によってシステムが作動している。なお、人格を移植するという行為が非人道的に思われたため、伊吹マヤはこのシステムを倫理に反する不快なもの（コアとなる部分に関してまで知っていたかどうかは不明）と考えているようである。システム作成を譲け負った赤木リツコ自身も、望まれたものではないと自覚はしていた。



システムが起動した際、エントリープラグ内のディスプレイAには「OPERATION DUMMY SYSTEM REI」の文字が浮かび上がる。

ダミープラグ

ダミーシステムを用いた専用のエントリープラグのこと。綾波レイの四肢パーツをコアとし、彼女のパーソナルが移植されている。EVA3号機の起動実験が行なわれる頃、すでに試作は完成していたものの、赤木リツコにより起動実験での運用は危険だと判断されて使用は見送られていた。その後、第14使徒ゼルエム襲来の際に用いられたが、EVA初号機は接続を拒否、レイ本人が放棄しようとした際にも接続拒否されていたことから、システムのエラーではなく、初号機の中にあつた意志がレイという存在を受け入れなかったためとも考えられる。なお、5号機から13号機までのEVAシリーズはダミープラグが標準で使用されているが、こちらには渚のマルのパーソナルが移植されている。第13使徒バルディエル艦に見られたダミーシステム開放時の攻撃性や残虐性は、ダミープラグによって活動する産物にも顕著であった。



赤いカラーリングが施された試作型のダミープラグ。EVAに直接挿入されるためエントリープラグと同一の形状を持つ。

ダミープログラム

NERV本部の調査を目論む何者かによって第3新東京市でジオフロントが停電させられた際、その復旧ルートから本部の構造を推測されようするためにMAGIが走らせたプログラム。本部全体の把握を困難にさせるための偽造ルートだと思われる。

タラップ

昇降用の梯子。発令所中央の両側にある緊急脱出口から伸びている。第2次機体延長試験を行っていた実験場から、R-017など経由で発令所に辿り着いた赤木リツコと伊吹マヤが使用した。



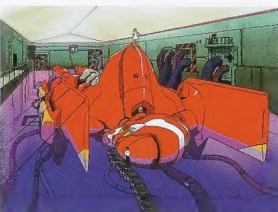
「新時代のな勝利」だと思ってたタラップを使うはめになったリツコに対し、マヤは「誰入れば愛しい」だと答えていた。

探査針

エントリープラグ先端部分の機体管制機器にある部位。EVAの中枢神経系に接続するための機構と思われる。なお、遺伝子工学の分野ではプロローブと呼び、遺伝子の存在を検出するために使うDNAまたはRNAの断片試料などを指す。

タンカー

一般的には液体を輸送する目的の船舶もしくは航空機を指し、内部に大型のタンクを設置しているためタンカーと呼ばれる。太平洋海軍に運送されたEVA試号機は、改造されたタンカーによってドイツから運送された。オセロも参照。



L.C.L.と思しき水筒まで浸した状態のまま試号機を運搬するためにタンカーを使用したであろう。

男性オペレーター

中央作戦司令部のアンドーフロアや実験場の管制室などでその姿が確認できるNERV男性職員たちのこと。配属部署に限らずオペレーターは共通の制服を着用している。男女のデザイン差もそのラインと、スカートがパンツかという程度。



女性オペレーターと同期に各種端末の操作やアナウンスを主な業務内容としているほか、作戦行動や実験といった活動もサポートする存在である。

単体

生命の魂ひとつであること。転じて、単一の身体において生命活動を行なう生物個体をいう。使徒は単体においてひとつの種となる単体生命で、それに対し人類は多数の個体が集合することにより種が構成されている群体生命である。なお、人類種完計画とは、「出来損ないの群体」であるところの人類を、「完全な単体としての生物」へと人工進化させることを目的とするものであると葛城ミサトは語っていた。



複数同時に襲来することはなく、常に単身で襲れる使徒。その魂もまた唯一無二のものなのだろうか。

CATEGORY ち

Clowern

知恵の実

ヒトが持つとされているもの。一方、使徒は生命の実を持つ存在とされている。EVA初号機はヒトが本来持っていた知恵の実に加え、使徒を喰らうことで生命の実と言われる有機物を手に入れた。なお、旧約聖書「新世記」における知恵の実、エデンの園の中央部にあるとされる本の木のひとつ。知恵の樹になるものとされる。この実は神から食べられることを禁じられていたが、アダムとエヴァは蛇にそそのかされてこの禁を破ったためにエデンを放逐された。



生命の實化しつつある初号機のことも、「使徒の持つ生命の実とヒトの持つ知恵の実。その実を手に入れたEVA初号機は特に尊しき存在となつた」とを月宮コウジは語っている。